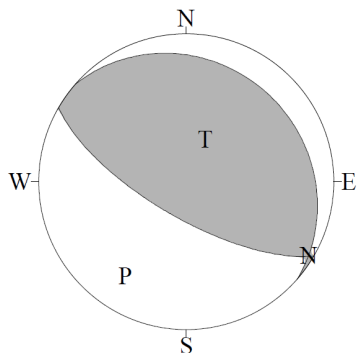


3月31日 ローヤリティー諸島南東方の地震 (W-phase を用いた発震機構解析)

W-phase による解

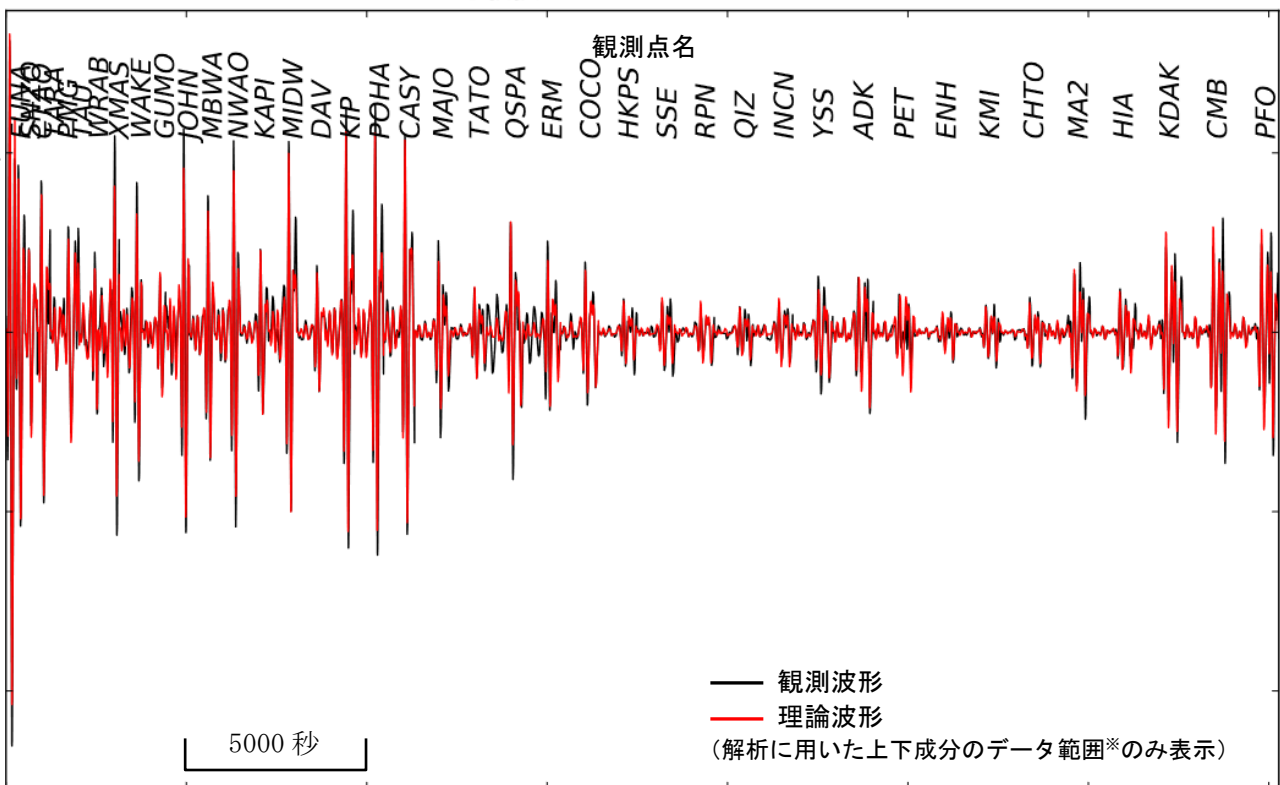


2022年3月31日05時56分(日本時間)にローヤリティー諸島南東方で発生した地震について W-phase を用いた発震機構解析を行った。発震機構、Mw とも、他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mw は 6.9 であった。なお、W-phase の解析で求めた震源は南緯 22.6°、東経 170.5°、深さ 12km となった。

W-phase の解析では、震央距離 10° ~ 90° までの 40 観測点の上下成分、29 観測点の水平成分を用い、100~300 秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とは P 波から S 波付近までの長周期の実体波を指す。

Mw	M ₀	断層面解 1 (走向/傾斜/すべり角)	断層面解 2 (走向/傾斜/すべり角)
6.9	2.98 × 10 ¹⁹ Nm	120.1° / 70.4° / 86.2°	311.3° / 19.9° / 100.6°



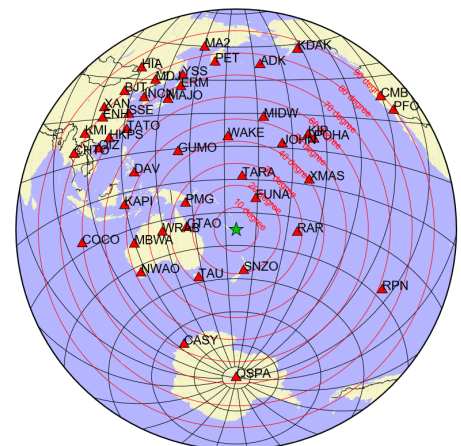
※解析に用いたデータの範囲は 15 秒 × 震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phase に関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera, 2008, Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) のデータ管理センター (DMC) より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析には金森博士及び Rivera 博士に頂いたプログラムを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成